

放送日： 平成 20 年 4 月 21 日  
タイトル： 救急医療について  
担当者： 看護師 中西 紀彦

甲賀地域の皆様、こんにちは。私は公立甲賀病院の救急外来に勤務しています、救急看護認定看護師の中西です。今日は、救急医療についてという内容で少しお時間をいただき、お話しさせていただきます。

近年医療の高度化に伴い、少し前までは救えなかった命も、病気の内容と早期に発見されれば、救えるようになりつつあります、しかし、人が心肺停止状態(呼吸と心臓が止まった状態です)になってから時間がたてば経つほど、救える可能性は低くなり、また救えたとしても重大な後遺症を残してしまいます。その理由の一つとして、人間の体の中で司令塔の役割をしている「脳」は酸素がない状態にとても弱いということが挙げられます。「脳」は3-4分酸素が流れないと、脳の細胞が死んでしまい、その細胞は元に戻りません。その範囲が広ければ広いほど、命に関わってきますし、後遺症も大きく残ることになります。このような状況を防ぐためには、心肺停止状態の人を早く見つけて、適切な処置を行うことが必要になってきます。心肺停止の状態から発見までの時間が早ければ早いほど、何の後遺症もなく元通りの生活に戻れる可能性が高くなります。適切な処置が何かというと、救命処置になります。救命処置と聞くと難しそうとか、ややこしそうなイメージが強いですが、今は誰も手早く行なえるように、分かりやすくなりつつあります。簡単に言うと、意識のない人が倒れていた場合に、人を呼んで救急車を呼ぶことと、心臓マッサージを早く始めましょう、近くにあればAEDも早く貼りましょうという内容です、非常に抵抗のあった、人工呼吸も今では行わないの方がその方を救える確率、救命率が高いともいわれております。怖がらないで、突然倒れた方に手を差しのべられる方がたくさんいる、そんな地域になって欲しいと願います。

また、人が突然倒れて現場にいるだけではやはり救えません。早く、適切な処置を行いながら、適切な医療機関、病院への搬送が必要です。ここで、必要になるのが救急車です。消防統計によると、救急車の出動件数は平成8年までは年間2000件でありましたが、昨年では4791件に上昇しています。一秒一刻が命に関わる人のときに、近隣の救急車が出払っていてすぐに出動できないことがあります。そのため、通報から現場到着までの時間が年々長くなってきています。救急車を呼ぶことが悪いことではありませんが、適正に使用しましょう。

救急外来でも同様に、命に関わる方、重症な方を判断して診察させて頂いています。そのため待ち時間が発生しますが、地域住民の方の救命率の向上のためにご理解とご協力をお願いします。

たくさんの方の命が救えるように、救急隊と救急外来スタッフは連携を取り合い、日々救命のために努力していきたく思います。

なお、今日何度も話に出てきました、救急処置をもう少し詳しく知りたい・出来るようになりたいと言うご希望が団体であれば、講習に伺いますので、甲賀病院の看護局までご連絡ください。